



阪急阪神ホールディングスグループ社会貢献活動「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」情報誌  
[2011年夏号(年4回発行)]

### これからご協力お願いいたします! 「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」収支報告

「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」も開始から2年が経過し、約900名の方のご参加をいただいています。去る5月24日、6月1日には助成報告会を実施し、助成対象団体10団体の方から、皆さまの寄付がどのような活動に役立っているかご報告いただきました。

参加者の方からは、「実際の活動の話を聞いて、自分の寄付が役に立っていることを実感した」「ボランティアはもちろん、仕事の企画の参考にもなった!」といった声をいただきました。



「阪急阪神 未来のゆめ・まち基金」の2010年度(2010年4月1日~2011年3月31日)の収支報告は、以下の通りです。

収入総額	2,845,287円
支出総額	2,500,000円
2009年度末残高	1,256,542円
2010年度末残高	1,601,829円

支出総額の250万円は市民団体への助成金25万円を10団体に拠出したものです。(これに阪急阪神ホールディングスから25万円を上乗せし、それぞれの団体に計50万円を助成しています)

詳しい収支報告をプロジェクトHPの従業員向け申請書ダウンロードページにも掲載しています。

## 「LIVE SDD」が教えてくれた 音楽のチカラとメッセージ

ゆめ・まち・みらい インタビュー

### 根本 要さん

(STARDUST REVUE ミュージシャン)



- ゆめ・まち基金 助成対象団体レポート  
「認定NPO法人 きょうとグリーンファンド」  
「人を自然に近づける川いい会」  
「NPO法人 発達障害を考える会 TRYアングル」
- 東日本大震災 復興支援／緊急特集  
大阪ボランティア協会 早瀬昇さんに聞く  
「被災地の人々のために、いま私達ができること」

阪急阪神ホールディングスグループ

### ポイントがつなく社会貢献の輪 ポイント交換申請、受付中!

ポイント制度会員の皆さま、残高通知書はお手元に届きましたか? 職場の庶務担当を通じてお届けしています。2010年1月から12月までの活動で貯まったポイントが、今回よりお使いいただけることになりました! ポイントを交換する楽しさをぜひ味わってみてください。

**申請方法**  
メール・グループ社内便・郵送など

**申請期間**  
7月31日(日)事務局必着

- 交換メニュー**
- 以下の3つから選択
- A. 市民団体への寄付  
(阪急阪神 未来のゆめ・まち基金)
  - B. 六甲山に植樹する苗木
  - C. フェアトレードの商品  
(同封の商品リスト全27点より選択)



### 義援金・支援金 [Contributions]

義援金は、被災者に直接配分される寄付のこと。窓口は自治体やマスコミなど、複数にわたりますが、最終的には合算した上で被災者に配分されます。一方、支援金は、被災者のために活動するNPOやボランティア団体の活動を支えるお金。義援金に比べ、長期にわたって被災者を支える力となることから、注目を集めています。



#### 編集後記

- 東日本大震災発生後、早瀬さんのインタビュー(P5-6)を急遽企画し、4月8日に取材しました。本記事が、被災された方の今の気持ちに寄り添う一助になれば幸いです。(新美佳代)
- 新メンバーの朝山です! 今まで「社会貢献」について、知ってはいてもなかなか実行していませんでした...が! 自分にもできることを探し、実行していきたいと思えます! (朝山千春)



熱気あふれるステージ。アーティストと観客の一体感も「LIVE SDD」の魅力になっている

# 「LIVE SDD」が教えてくれた 音楽のチカラとメッセージ

今年2月20日のライブで4回目となった「LIVE SDD(STOP!! DRUNK DRIVING)」  
そこでプロジェクトリーダーを務める根本要さんにインタビュー。  
音楽の持つチカラを語っていただくうち、お話は3・11の大震災にも及びました。

## 全員が同じ 意志のもとに集まる スペシャルな時間

2006年に福岡で3児が死亡した痛ましい飲酒運転事故があった時、FM OSAKAの知人から「飲酒運転撲滅を啓発するライブをやらないか」とお話をいただいたのが「LIVE SDD」に参加するきっかけ。正直、僕は音楽を好きでやっていただけだから「音楽で何ができるか」なんてわからなかった。でも音楽で誰かが笑顔になってくれるなら一緒にやりたいと思っただし、音楽の持つチカラを確認したかった。

そもそも「LIVE SDD」は、僕らのやってくる普段のライブとは空気が全然違う。スタッフの熱い思いに、まずミュージシャンが啓発されるんですよ。出演者も裏方もみんなが同じ意志のもとに集まっている、学園祭みたいなも

の。それがお客さんにも伝わるんだろうね。1回目はお祭り気分であられたお客さんも、ミュージシャン達があまりに飲酒運転撲滅を熱く語るの、「いい曲だったね」という感想に、「飲酒運転は絶対やめようと思った」というブラスのキーワードが飛び出ちゃった。やるまでは、正直そんなにダイレクトに伝わると思わなかったから、本当にびっくりした。2回目からはお客さんも、SDD運動に参加しているって気持ちも強く持つて集まってくれた気がするな。

## 飲酒運転撲滅を 訴えながら、人への 思いやりも伝えたい

実は飲酒運転について深く考えるようになったのは、SDDを始めてからなんです。初めは車を運転する人に訴えるキャンペーンだと思ってたけど、運転しない人もお酒を飲まない人も

今回SDDの活動を通じても感じただけで、飲酒運転撲滅も、被災地支援も、企業が動くというんなら人達が集まってきて、すごく大きな力を発揮できる。「企業は物資から」、「個人は気持ちから」。企業の社会貢献も、人が人を思いやる気持ちも、明日をつくる大きな力ですよ。

すれば、お客さんにも、そこまでやるうとして僕らの思いがもっと伝わるのかもしれない。このライブは賛同してくれたミュージシャンがつくるんだ。プロジェクトリーダーも交代でやればいい。そして賛同してくれたミュージシャンが最低2年は出演できるようにすれば、最初はとりあえず参加した人も2年目になれば、あれやろうとかこうしたいとかも面白くつくれるはず。これは来年からの課題かな。

SDDを通じて感じたことで一番大きいのは、それまで「知らない人は助けられない」と思っていた僕自身の考え方が変わったこと。「LIVE SDD」は飲酒運転撲滅の意義に共感してくれる人達のライブで、その中には当然スタレビを知らない人だっている。音楽の中にメッセージがあり、メッセージの中に音楽がある。それが思いとなって知らない人にも伝わるんだ。今回の大震災が起きた時「何かやらなきゃ」って意志が即座に働いたのも、SDDの経験があったからだと思ふな。

## 復興を後押し するために全国ツアー を通じて支援

3月はデビュー30周年で全国ツアーの最中だったけど、震災の影響で東北のライブを延期した。この状況の中で歌えないと思ったしね。そんな時、ボラ

ンティアで被災地に赴くある女性医師から「同僚からボランティアハイになるなと言われました」とメールをもらったんだ。一刻も早く被災者のために何かしなきゃって思っていたけど、この言で冷静になれた。「被災者の思いや立場を考えれば、今は現地に歌いに行く時期じゃないだろう。だけど1年間かけてツアーやるんだから、ライブを通じて全国を回りながら被災者支援をしよう。そして、行ける時になったら必ず被災地の人に歌を届けに行こう」と。義援金を僕らに託してくれた人に、支援の思いを長く持つて欲しいからステッカーをつくったんです。今すぐ被災地に行ける人は行って支援することも大事、だけど僕らも含めて行けない人だって長い期間かけて支援することも大事なんです。16年前の阪神淡路大震災の時にも、何年も仮設の神戸ハーバーランドでライブをして、街と人が毎年復興していくのを見てもらいました。今回もこの震災を何とか乗り越えて欲しいし、震災前より素晴らしい町になるのを見てみたい。僕は被災地の人を受けた果てしない悲しみを請け負うこととはできないけど、その先を見られるよう力になることはできると思う。僕は歌うと決めた以上、その思いを届けたい。

## Profile

Kaname Nemoto  
根本 要さん

1957年、埼玉県生まれ。STARDUST REVUE(スターダスト・レビュー)のギター・ボーカル。1981年のデビュー以来、ライブミュージシャンとして活躍している。2012年4月までデビュー30周年の全国ツアー中※。今年STARDUST REVUE 30th Anniversary DVD「年めくり30年30曲」をリリース。代表曲に「夢伝説」「木蘭の涙」「愛の歌」など。

※CRYSTAL GEYSER presents STARDUST REVUE 30th Anniversary Tour「30年30曲(リクエスト付)」



SDD  
とは?

## あなたには何ができますか？ 飲酒運転をなくすために。

「SDD」とは、「STOP DRUNK DRIVING」の略で、飲酒運転の撲滅をめざし、FM OSAKAが推進するプロジェクト。1万人の賛同リスナーを招待して実施する同プロジェクトの集大成イベント「LIVE SDD」をはじめ、ラジオでの放送、街頭イベント、交通広告などを通じて、広く啓発活動を行っています。阪急阪神ホールディングスでは、このプロジェクトを「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」の一環として位置づけ、バックアップ。集まった募金は、交通遺児育成基金に寄付しています。



SDDを一人でも多くの人に知ってもらうため、さまざまな活動を展開

詳しくはホームページで <http://fmosaka.net/sdd/>

がくしゅうかい  
自然楽習会から冊子・絵本の発行まで  
人と川の共存をめざして  
活動中!

Series 06  
人を自然に近づける  
川いい会

生物多様性の維持に重要な役割を果たす川の環境悪化が止まりません。都心部では、人々が川で遊ぶ風景もすっかり見られなくなりましただけでなく、老若男女が活動をとにも努めています。また、より多くの人達に生物多様性の大切さを理解してもらおうため、『その世の魚100選』近畿のおさかな図録『生きものシグナル』、読み聞かせ絵本『石になった魚』などの冊子も発行。今後はさらに学識経験者や行政、学校、企業との連携を密に、幅広い活動を展開していく予定です。



人を自然に近づける川いい会 事務局  
主宰 石山 郁慧  
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-5-18 南森町センタービル402号  
TEL 06-6357-9941 URL <http://happytown.orahoo.com/kawaiikai/>

子ども達に健やかな地球を!  
市民の力でつくる  
「おひさま発電所」

Series 05  
認定NPO法人  
きょうと  
グリーンファンド

園児が描いたおひさまの絵

「きょうとグリーンファンド」は、1997年に京都府で行われたCOP3(気候変動枠組条約第3回締約国会議)を機に集った環境NGO関係者が中心になり、「環境負荷を減らすために自然エネルギーの普及を進め、次世代に健やかな地球を手渡したい」と2000年に設立されました。「市民が節電に努め、その省エネ分のお金を出し合うのが基本。1か月500円程度なら無理なく節電できるだろうと、賛助会員の年会費は6000円にしているんですよ」と大西さん。寄付と会費を積み立てた「おひさま基金」をもとに、国などの補助金も利用して、地域の保育園や幼稚園などに太陽光発電設備「おひさま発電所」をつくる活動を進めています。

2011年3月現在、「おひさま発電所」は京都府内に計15か所。単に発電設備を取り付けるだけでなく、その後の職員研修や発電設備を活かした子ども達や保護者への環境学習、セミナー、雨水タンクの設置などをサポート

「きょうとグリーンファンド」は市民からの寄付を活かし、京都市内や近郊の保育園・幼稚園に太陽光発電設備を設置する活動を進めています。今回は、設立当初からの中心メンバーであり、環境省登録の環境カウンセラーでもある大西さんに、活動の成果と課題を伺いました。

トシ、環境学習の拠点としての自立を促しています。

子どもの頃から省エネ型の暮らしを習慣に!

子ども達の身近に「おひさま発電所」をつくる意義は、「保育士や保護者の意識が変わること、子ども達に省エネの習慣が根付くこと」にあると大西さんは話します。設置をきっかけに、運動会にエコ競争を取り入れたり、お祭りにリユース食器を使ったりと、園側もいろいろな工夫を凝らすようになりしました。4年前、創立70周年を機に「おひさま発電所」を設置した妙林苑(保育園)の眞田寛子苑長も、「点灯式の際、保育士達でおひさま発電所の意義を伝える紙芝居をつくったんです。子ども達に伝えるには、自分達も勉強しなきゃいけないですよ。おかげで、すごく意識が変わったと思います。水の出しっぱなし、照明のつけっぱなしもなくなりましたし、園児が少ない時は1つの部屋に集まるなど節電に努めるようになりました」と語って下さいました。

設置時には園自体の費用負担もあり、希望する園はまだ多くありません。しかし電力の地産地消として注目を集める、京(みやこ)グリーン電力制度※も活動を後押し。「活動は今後も続けたいです。いつか小学校にも太陽光発電を」…夢は膨らむばかりです。

※太陽光発電によってつくられた電力を、「グリーン電力」とみなす証書を発行する制度。証書は、事業者やイベント主催者に販売され、その代金は「おひさま基金」に寄付される。事業者やイベント主催者は、証書を購入したことでグリーン電力使用に寄与したとみなされ、社会貢献活動としてアピールすることができる。

きょうとグリーンファンドへの  
寄付は税控除の対象に!

2008年に認定NPO法人として認められた、きょうとグリーンファンドに個人で寄付をした場合、所得税と個人住民税の寄付金控除が受けられます。詳しくはホームページを確認を。

認定NPO法人 きょうとグリーンファンド 事務局  
〒600-8104  
京都市下京区五条通高倉西入る万寿寺町143  
いづつビル6F  
TEL/FAX 075-352-9150  
URL <http://www.kyoto-gf.org> MAIL [info@kyoto-gf.org](mailto:info@kyoto-gf.org)

市民・保護者・関係者を結ぶ  
発達障がい児の支援と  
啓発活動を!

Series 07  
NPO法人  
発達障害を考える会  
TRYアングル

見た目にわかりにくく、周りから理解されにくい発達障がいの子ども達とその保護者を支援するため、伊丹市を拠点として2004年に設立。発達障がいについて広く市民に理解してもらうことをめざし、市民・保護者・関係者を結ぶ「TRYアングル」と名付けました。

LD(学習障がい)・ADHD(注意欠陥・多動性障がい)・アスペルガー症候群・高機能自閉症・知的障がいに関わっており、障がいに応じた学習支援、こどもの居場所づくり、子ども達の関わり方支援、パネル展や講演による啓発活動、大学と連携して子育てを支援するペアレントトレーニング、相手と自分の人権を認めた上で意見を伝えるアサーショントレーニング、情報交換・相談の場づくりなど、さまざまな活動を展開。

本人、保護者、学校などの関係者を同時に支援する「TRYアングル」独自の方法は、子ども達の笑顔はぐくむとともに、地域の人々の意識を少しずつ変化させているようです。



NPO法人 発達障害を考える会 TRYアングル 事務局  
理事長 宇和川 美保  
〒664-0858 伊丹市西台1丁目6-13 伊丹コアビル4F  
TEL/FAX 072-770-6533 URL <http://www.try-angle.org/>



きょうとグリーンファンド  
理事・事務局長  
大西 啓子さん

# 東日本大震災

## 復興支援 緊急特集



家の中の片付け・清掃や  
炊き出しを行うボランティア

photo by : arito

2011年3月11日に発生した未曾有の大震災。いまなお日常を取り戻せないでいる多くの被災者達に、私達はいったい何ができるのでしょうか。阪神淡路大震災でも活躍された大阪ボランティア協会の常務理事・早瀬昇さんに、これからできる支援について伺いました。

### 現地でのボランティアを希望する人に

阪神淡路大震災では「他人に頼みたくない」と支援を拒否する被災者が多く、ボランティアのニーズがなかなか集まらなかったそうです。そこで「ゴミ処分を買って出たり、再開店舗や販売物資がわかるニュースレターをつくったりと、自らボランティアプログラムを創出。今回の震災でも、事前の説明通りの仕事があるかどうか、現地に行ってみないとわかりません。「初心者の方は不安でしょうが、それでも被災地に行ける人は行った方がいい。そして営業しているホテルや旅館があれば、ぜひ泊まって下さい。現地でも何か買って下さい。それも支援になるんです」と早瀬さんは語ります。

参照の上、できることを見つけて下さい。課題を抱え込み過ぎず、自負心を持って何でも取り組んでみる。ボランティアを楽しく続けるコツ」と早瀬さんはアドバイスを下さいました。

少しずつではありますが、仮設住宅の建設も進んでいます。入居が始まると、被災者の生活面と精神面を支える長期のボランティアが求められるようになります。「仕事を抱える人には難しいかもしれませんが、週末に参加しやすいプログラムを工夫している災害ボランティアセンターもあります。全国社会福祉協議会のホームページなどを

#### ボランティア、義援金・支援金の募集情報をチェック!

全国社会福祉協議会「東日本大震災」被災地支援活動情報  
<http://www.shakyo.or.jp/saigai/touhokuzisin.html>

**義援金** 日本赤十字社 義援金受付  
[http://www.jrc.or.jp/contribution/l3/Vcms3\\_00002069.html](http://www.jrc.or.jp/contribution/l3/Vcms3_00002069.html)

**支援金** 赤い羽根共同募金 災害ボランティア・NPO活動サポート募金  
<http://www.akaihane.or.jp/er/p3.html>

# 被災地の人々のために、いま私達ができること

### 求められる支援は地域によってさまざま

今回の被害の大きさは、経験豊かな早瀬さんにとっても予測をはるかに越えたものでした。地震、津波、原発、風評被害に加え、下水や鉄道などのインフラ崩壊、仮設住宅の建設地不足などの諸問題が重なり合い、復旧・復興は遅々として進みません。阪神淡路大震災の折に被災者支援の先頭に立った大阪ボランティア協会でも、「救援の常識が覆された」と戸惑いを隠せないとか、それでも震災後すぐにボランティアコーディネーターを被災地に派遣し、協力団体と連携しながら欠乏している物資の供給に努めました。

当初は命をつなぐ物資が求められました。が、しだいに避難所の環境格差や自宅に避難している人の食糧確保が課題に。次に求められたのは、がれきの撤去、浸水した家の中の片づけなど。県外からのボランティアも現地入りし、個別のニーズ

に「見える活動がスタートしました。アルバムや写真といった思い出の品を探して所有者に届ける活動、被災ペットたちの保護や里親探しなども、各地で展開されるようになりました。ただし避難所や地域ごとにニーズが異なる上、状況も刻々と変化するため、今後ボランティアにどのようなことが求められるか、明言できない状態が続いています。



社会福祉法人  
大阪ボランティア協会  
常務理事  
早瀬 昇さん

1955年大阪生まれ。大学在学中よりさまざまなボランティア活動に参加。フランス・ベルギーの社会福祉施設での研修を経て、大阪ボランティア協会に就職。1991～2010年まで事務局局長を務める。『元気印ボランティア入門』(大阪ボランティア協会)など著書多数。

津波によって大きな被害を受けた宮城県名取市の海岸線／東日本大震災にて写真提供:毎日新聞社



### 被災者の大きな力になる「義援金」と「支援金」

もちろん現地に行けなくても私達にできることはあります。それが「義援金」と「支援金」です。「義援金」は配分方法が決まらなると被災者に届きませんので時間がかかります。一方、被災者を支えるボランティアグループやNPOの活動資金となる「支援金」は、スピーディに活用されるという利点があります。「支援金」は「シーズ(種)・マネー」とも呼ばれ、例えばNPOによる被災地で炊き出しを行う資金に充てられれば、炊き出しを支えるボランティア達を集めるなど、元の資金の

数倍の効果を発揮することになります。復興までの長い道のりを考えるなら、できれば1回限りではなく、長期にわたって支援を継続したいものを決めるなど、それぞれ工夫して下さい。また自粛ムードを払拭して、普段通りの生活をするのも大切です。旅行やイベントも取りやめるのではなく、応援モードに切り替えて実施してはいかでしょうか。結果的にはそれが被災した人達を支援する大きな力になるのです。

### 被災者に必要とされる支援の変化例

